

医療法人財団 愛泉会

愛知国際病院

老人保健施設 愛泉館

2019年 秋  
vol.94

# みちよみやま

特集

幅広いケア内容  
いつも安心の  
ケア体制を

CROSS people

病棟看護師×言語聴覚士

医療法人財団 愛泉会で働く仲間たち

「作業療法士」

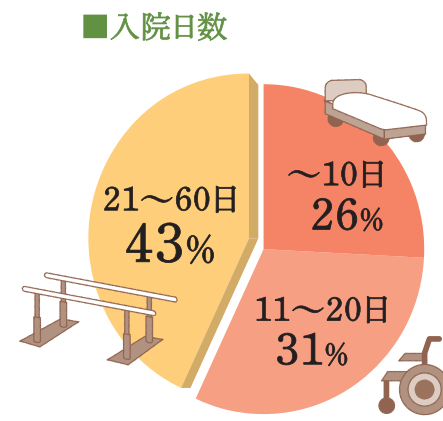




# 急性期から慢性期の疾患まで いつも安心のケア体制を

## ケア内容が幅広い 愛知国際病院の役割

急性肺炎や感染性腸炎、骨折・転倒など、急な入院への対応から、超急性期病院で手術をした患者さんのリハビリや退院支援まで、さまざまな役割を担っているのが愛知国際病院です。入院日数も、10日以内の短期、2〜3週間の中長期、3週間以上の長期がバランスよく分布していることから、当院が提供するケアの幅広さが分かります。



## すべて地域包括ケア病床 だからできること

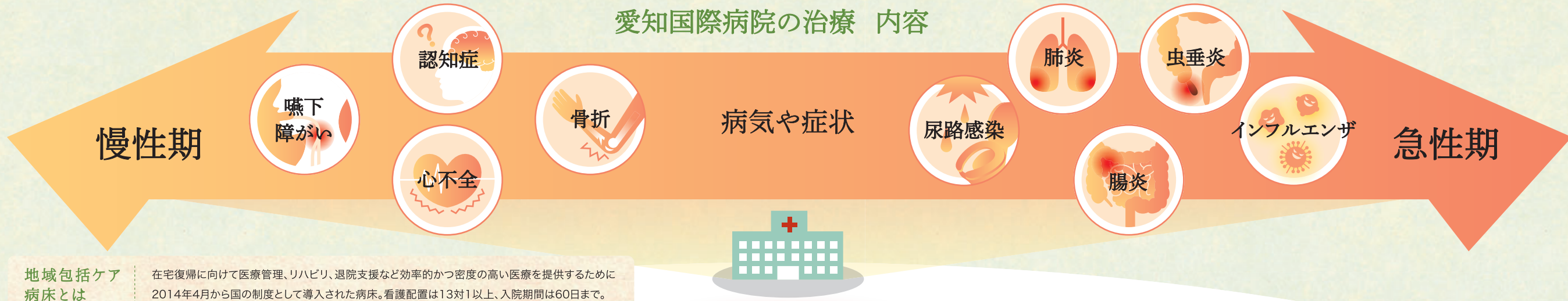
もともと急性期病床・亜急性期病床としてスタートした愛知国際病院の入院施設ですが、高齢化や地域医療のニーズの変化に合わせて、ホスピス病床、地域包括ケア病床と、さまざまな役割を担うようになりました。そして今年5月、ホスピス病床(20床)を除く52床はすべて地域包括ケア病床として新たなスタートを切りました。とは言っても治療や看護体制に変わりはなく、肺炎や腸炎など急性期治療も今までどおり行います。加えて、地域包括ケア病床の目安である入院日数60日間を最長として、それぞれの患者さんに必要なリハビリや退院支援を今まで以上にしっかりと提供できるようにになりました。

最善の治療を目指して  
どうすれば患者さんにとって最適な退院を迎えられるか。患者さんの要望に耳を傾けながら、スタッフ全員がつねに考え、最善のケアを提供できるように心がけています。

病棟看護師長  
宮崎 里佳子



## 愛知国際病院の治療 内容



地域包括ケア病床とは  
在宅復帰に向けて医療管理、リハビリ、退院支援など効率的かつ密度の高い医療を提供するために2014年4月から国の制度として導入された病床。看護配置は13対1以上、入院期間は60日まで。

## 入院時からスタート 安心につなげる退院支援

退院後、安心して生活を送ることができるよう、入院時から情報収集を行います。入所予定の場合は、施設の職員の方と面会して、患者さんのご希望や状況を伝えることで、住みやすい環境を整えます。



## 個々の体力に応じて 効果的なリハビリを 提供

理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)が常駐する体制を整えています。患者さんの個々の体力に合わせて、機能維持・回復に効果的なリハビリを手厚く提供することが可能です。



## 早期回復につなげる 手厚い看護体制

愛知国際病院の地域包括ケア病床では基準に定められた人数を大幅に越える看護師を配置しています。時間にゆとりを持って看護できるだけでなく、患者さんとのコミュニケーションも大切にしています。



## 多職種で栄養のバランスを整える 栄養サポートチーム(NST)

栄養サポートチーム(NST)は、さまざまな理由から十分な食事が取れない患者さんに対して、個々に必要な栄養の量や質を評価し、病気の回復や合併症の予防に役立つ栄養補給の方法を提案します。入院中の栄養管理だけでなく、退院後も安定して継続できる方法を見つけることを大切にしています。

### 飲み込み 機能の検査も

飲み込みの機能が弱い場合は、嚥下造影検査(レントゲンを使用した検査)で、のどの形や飲み込み方に問題がないかを調べて食事方法の検討などを行います。



医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士、言語聴覚士などで構成された栄養サポートチーム(NST)。

### 【NSTの主な活動内容】

- 病棟回診(週1回)
- 委員会(月1回)
- カンファレンス(週1回)
- 勉強会(院内外向け)



## 急性期にも対応できる医療 異なる分野の専門医

休日や夜間も医師が常駐しているため、スピーディに確かな対応ができます。人工呼吸器を使用している患者さんや、麻酔が不可欠な鼠径(そけい)ヘルニア手術など、医療依存度の高い患者さんの入院も可能。内科、外科、整形外科など、さまざまな分野の専門医が揃っているので安心です。







**味岡** 「食」の字は、「人を良くする」という形だ、と聞いたことがありますが。私は食べることやコミュニケーションが難しくなっている患者さんにもSTとして関わりの糸口を探しながら、「落ち着きどころ」が見つければと思っています。

**中根** あの患者さんのときも、どんな食事が適しているかみんなで探しましたね。ちゃんと食べられるようになって、老健に入所できたときは本当にうれしかったです。

**味岡** 点滴生活となると、転院先探しに時間がかかったり、受け入れ先がとて限られたり。入院中にいかに食べられる状態にするかは退院後に



食べることで幸せを感じたり元気になったりする患者さんは多いです。

いかに食べられる状態にするか。それが退院後にも大きく影響します。

言語聴覚士 (ST) 味岡 昌枝 病棟看護師 中根 愛美

**味岡** 全床が地域包括ケア病床(地ケア)になって看護の仕事に変化を感じることはありますか。

**中根** 「早く退院できるようにしなきゃ」という焦りがなくなつて、ゆとりを持って患者さんと接するようになりました。症状が落ち着いたとき、食べられない患者さんに「食事を変えてみよう」「他に方法はないか」とアプローチするチャンスもあります。

**味岡** リハビリはもちろんですが、看護体制も手厚いということですね。



も大きく影響しますね。

全床が地域包括ケア病床になって

「食」の字は、人を良くすると書く口から食べることは治療においても大切

**中根** 味岡さんとは約2年間、NSTのメンバーとして一緒に活動させていただきましたね。

**味岡** ベッド上での食事が当たり前になっていた患者さんについて「車椅子に座って食べることができそうかな?」とか、中根さんはいつも前向きな提案をしてくれました。

**中根** 食べることで幸せを感じたり元気になったりする人は多いので、鼻からの経管栄養や点滴でなく、口からの食事を大切に考えています。

**味岡** うまく食べ物を飲み込めない、ずっと口の中に残っている、そんな患者さんの口や喉の動きを見ながら「食べる」「飲み込む」を支援するのがSTの役目。でも点滴とのバランス、カロリー摂取量などSTだけでは解決できないことも多く、多職種が連携するNSTというバックボーンがあつてこそ安心して取り組めます。

**中根** 私がNSTのメンバーだったとき、経管栄養がうまくいかず、肺炎

**中根** 一般的な地ケアの13対1の看護基準と比べると、当院の10対1という体制は単純に3人分の差があつて、それだけ看護に余裕が持てることとなります。例えば、食事の飲み込みがうまくいかず、1時間近くかかる患者さんに寄り添うこともできます。そばで見ていると食べてくれたりするんですよ。

**味岡** 患者さんつて周囲の状況を敏感に察知するから、忙しそうにしていると、気を遣つたり関わりを拒否したり。逆に、こちらが気持ちのゆとりを持って接すると、患者さんの受け入れ方も変わつたりします。

**中根** ユマニチュード(※)の考え方と同じですね。実践していくうち、患者さんが心を開いて「あれ食べたい」と言ってくれると「頑張つてよかった!」とうれしくなります。

**味岡** 最初は険しい顔で「あつち行け」などと拒絶していた人が「ありがとう」「おいしい」と自らすすんで食べる姿を見ると、もう感動です。

**中根** そういう場面をこれからもたくさんつくつていきたいですね!

を繰り返していた患者さんがいました。過去に胃や食道の手術も受けられていて…。

**味岡** よく覚えています。ベッドから起き上がれない状態でした。でもNSTのメンバーでいろいろ関わっていくうち、少しずつ元気になって「アイスクリームを食べたい」と。

**中根** その一言で「みんな希望を叶えよう!」と頑張りましたよね。

**味岡** 夜のうちに経管栄養で少しずつ栄養を蓄えて、昼間はゼリーなどで飲み込みのリハビリ。70歳を過ぎていましたが、徐々に体力がついて歩行器で歩けるまでになりました。誤嚥性肺炎とか万が一を考えると、口からの食事は不安要素もありました。ドクターやチームの理解があつてこそ実現できたりハビリでした。

**中根** 看護師は患者さんの発言をもとに提案することが多いので、きちんと耳を傾けてくれる医師やチームのみなさんには感謝しています。

Profile

言語聴覚士 (ST) 味岡 昌枝

脳と言葉の関係性に興味を持ち、1999年に言語聴覚士の資格を取得。急性期病院などの勤務を経て2005年入職。NST委員会には設置初期から参加。「NST専門療法士」資格取得。



病棟看護師 中根 愛美

小児科と老人の混合病棟、地域包括ケア病棟の勤務を経て、2015年入職。NST委員会のメンバーとしても活動。2017年出産、2018年職場復帰。現在はユマニチュードの活動にも参加。



※…ユマニチュード フランス語で「人間らしさ」の意味。認知症をはじめ、あらゆる対人援助の場面で活かすことのできる包括的ケアメソッドの1つ。



医療法人財団 愛泉会で  
働く仲間たち

職場のこと  
仕事のこと

作業療法士(リハビリテーション科)  
夢中になれる作業を通して  
楽しくリハビリを



ちぎり絵で手指の複雑な動きを訓練。  
楽しみながら作業することで脳の活性化にもつながります。



副主任の門田亜紀さん(左)と、松浦弘子さん(右)。  
患者さんとの会話から新しいリハビリプランを立てることも。



見本と同じ位置に棒を差し込む作業。  
手指機能を高めるためのリハビリです。

作業療法とは、障害を持つ患者さんが、日常生活や社会に適應する力を取り戻すため、手芸や工作などを通してリハビリを行うこと。当院では2名の作業療法士が常勤し、コミュニケーションを取りながら入院患者さんの治療にあたりています。他のリハビリスタッフと協力することも多く、日常動作・食事動作では、理学療法士や言語聴覚士と役割分担し、治療目標に基づいて身体機能の維持や回復を目指します。

たとえ短期間でも、入院生活は患者さんにとって人生の一部。動けるようになる、機能を回復するだけでなく、心の距離感も大切にしながら、居心



看護師や他職種と協力しながら、患者さんに寄り添った治療法を考えます。

地のいい時間を過ごしても、特には、情報共有は、リハビリ部門での、特に大切です！

また、認知機能の低下を防ぐには、感情に働きかける工夫も欠かせません。そこで塗り絵やちぎり絵など、患者さんが楽しめる作業時間も用意しています。患者さんが行ったリハビリが形として残るのも作業療法ならではの、壁に飾りたいくつもの作品を眺めるたび、患者さんとの思い出が蘇ります。

職場のこぼれ話

患者さんの作品は宝物！  
作業療法室で患者さんと一緒に作った作品を大切に壁に飾っています。



リハビリスタッフ全員で情報を共有することで、患者さんの状態をより的確に知ることができます。



副主任  
門田 亜紀

2009年愛泉館に入職。  
2013年に愛知国際病院へ異動した後、副主任に就任。「患者さんファースト」な関係づくりを心がけています。



地域包括ケア病棟のある1日

最長60日まで入院できる地域包括ケア病棟では、退院後の生活に必要なリハビリを十分に行うことで、安心して自宅(施設)に帰ることができます。一例として、ある患者さんの1日を紹介します。



6:00 起床 ● 検温 ● 食事移動(ラウンジでお食事の方)



8:00 朝食  
● 食事介助、  
内服薬の確認



9:00 医師回診  
● 必要であればレントゲン  
などの検査(1階へ移動)  
● 点滴などの処置



9:00 個別リハビリ

【PT】階段昇降の練習、  
リハ室での歩行訓練、  
筋力トレーニングなど  
【OT】作業療法室で道具を  
使った細かい動きの訓練  
【ST】ことばや発音の練習、  
お口の体操、飲み込みの  
訓練



13:30 個別リハビリ 13:30 褥瘡回診



14:00 集団リハビリ



ポイント

ゲームやクイズ、体操など、  
グループで楽しめるよう  
リハビリセラピストが担当します♪



15:00 施設面会

● 退院後に入所予定の施設の職員とラウンジで  
面会(ご家族、看護師も同席)。  
● 介護認定調査などを行う場合もあります。

ポイント

退院に向けて、院内では多職種が入院時から  
情報収集を行っています。患者さんとご本人の  
ご意向をできるだけ汲み取り、安心できる  
退院に向けてしっかり取り組みます！



ポイント

退院後の生活を想定して必要な動きの練習を  
行います。1回20分のリハビリを1日平均  
1~2時間程度行っています！



12:00 昼食  
● NST回診  
● 検温



ポイント

多職種6~7人がベッドサイドで食事の様子を確認し、  
栄養摂取の改善を目指します。



17:30 食事移動(ラウンジでお食事の方)



18:00 夕食  
● 検温  
● 内服薬の確認



21:00 消灯

認知機能低下予防に  
ちょっとした宿題を

認知機能低下を防ぐため、OTが折り紙や計算プリント、塗り絵など5~10分程度でできる宿題を毎日用意し、脳の血流改善を促します。できあがった頃、OTが病室でチェック♪



自宅に退院することが難しい方を、積極的に支援する体制が整いました。

愛知国際病院の一般病棟はこの5月から全床を地域包括ケア病床として歩み始めました。今までと変わらず一般の患者さんをお受けする役割に加え、特に大病院での治療後、自宅へ帰ることが難しい方を積極的に支援する体制を整えました。患者さんが自分でトイレに行けるように、家の前の階段が上れるように、寝たきりにならないように、また安全に食事ができるように、多職種チーム

でリハビリや生活ケアを提供し、生活する力を整えるお手伝いをします。また、このような活動性を回復するため、栄養サポートチーム(NST)がお一人おひとりのエネルギー量を計算し、必要な栄養を提供する取り組みも進めています。在宅での生活に安心して戻ることができるように、病院全体でこれまで以上にアプローチを行ってまいります。



院長 太田 信吉



リレーでつづる  
Dr. ひだまり 日記



クレアが教えてくれること

整形外科 奥澤 継雄

「ボールテイク！」  
早朝の公園で投げたボールを宙で捕らえ、尾を振りこちらに持ってくるメスの黒ラブ（ラブラドル・レトリバー）、それがクレアです。訓練を受けたけれど介助犬にはなれず、キャリアチェンジ犬として2015年の大晦日に我が家はクレアを迎えました。

散歩のたびに足とお尻を洗い、体を拭き、排泄物を処理し、寝る前には歯を磨き、自分のこと以上に体重過多には気を遣い、週末にはシャンプーし、多くの愛犬家のように、クレアが来てからというものが家で過ごす時間のほとんどはクレアに捧げるようになりました。咬まれてマズルにぼっかり穴が開いたり、クレートの金属の枠に足が挟まり抜けなくなったり、冷汗をかくようなどきごともこれまでにありませんが、そのことを通してクレアは

ますますうちの娘になりました。そんなクレアは、家ではあつちで寝、こつちで寝、それでいてこちらにはいつも気を配っています。何もせず、何も言わなくても、静かに家族の傍らに寄り添い、嬉しむぶん振り回しながら、私の前でくるくる回り、飛び跳ね、体の全てで喜びを表します。その姿はあまりに自然、あまりに無垢で、思わず家族を大切に、明日のことを思い煩わず、今を生き、今を楽しむ。クレアはそのことの大切さを私に教えてくれているように思っています。

ありがとうございます、クレア。これからもよろしく。



Next Doctor >>> 緩和ケア 大村浩之先生です。お楽しみに！

～病院のお庭から～  
Photo Letter

秋は白い馬にまたがって

CBCラジオのトーク番組を聞いていました。季節の話になり、どちらかが「春は、春は、来るよ」と口ずさんだメロディー、実は春ではなく秋なのですが、小学校6年生のときに県民文化祭で歌った曲でした。おーっ、懐かしい！ ソツミソー ファッレラーシーラーソー、曲名は「秋は白い馬にまたがって」。Nコン（NHK全国学校音楽コンクール）1959年の課題曲です。小学校の課題曲としては叙情的でとても美しいメロディーと詞です。関東の田舎町の音楽教育はあまり活発ではなく、私たちが歌ったのは1967年と随分後のことでした。米野木神社の大きな白い馬を見るたび、この曲を思い出します。今の時期になると、病院の庭の風景も秋らしくなってきます。川原暎子先生が好きだったピラカンサの実や桜に絡む蔦が赤くなり、ヒメジョオンが爽やかな風に揺れています。愛知の長い秋を味わいつつ過ごしてまいりたいものです。



ピラカンサ

秋の蔦

ヒメジョオン

もっと知りたい！愛泉館

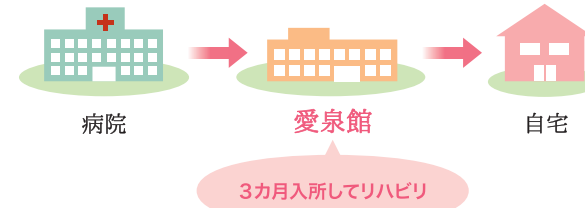
— 愛泉館のさまざまな機能 —



要介護状態の高齢者の方が住み慣れた地域で暮らせるよう、愛泉館にはさまざまなサポート体制が整っています。さらに、法人内外の多くの事業所と連携し、お一人おひとりの生活や、ご家族の状況に合わせた幅広い支援を行います。

病院から入所

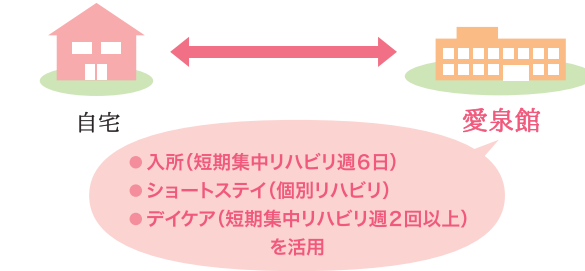
骨折や肺炎などで総合病院に入院したが、入院中に身体機能や認知機能が低下。このまま自宅へ戻るのが不安で愛泉館に入所。



階段の上り下りやトイレ動作が自分でできるように。昼間は家族が外出しても安心して自宅で暮らせます。

リピート入所

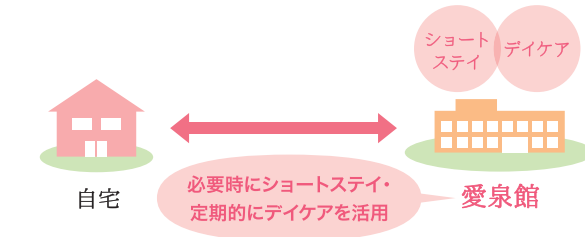
少しずつ機能が衰えてきているので、体調を崩しやすい夏や冬の期間だけ入所したり、家族の入院や家の増改築時に入所することも可能。



年間通して切れ目なくリハビリを受けられ、入所期間は医師の診察もあるので体調面も安心。その間家族もゆっくり休めます。

在宅支援

ショートステイやデイケアを利用することで、家族の介護疲れを軽減。旅行や出張など、家を空ける際にも活用。



ご家族の急用や急病に備えて、日頃から愛泉館を定期的にご利用いただくと、もしもの時も安心です。

看取り

自立支援だけではなく、最期の時間を共に過ごすターミナルケアや看取りにも対応。



ご本人・ご家族の気持ちに寄り添い、医師、看護師、リハビリスタッフ、音楽療法士、管理栄養士など多職種が連携し、穏やかな最期の時間を共に過ごさせていただけます。

愛泉館で働く多職種スタッフ

さまざまな専門知識・技術を持った施設スタッフや協力機関が連携し、利用者のみなさまの生活支援を行います。

愛泉館の多職種協働は  
ドーナツ型

各職種が専門性を発揮しながら、職種の垣根を越えてチームとして利用者サービスを提供します。利用者のみなさまを中心に、円で囲むようなドーナツ型の多職種協働が愛泉館のイメージです。

ご利用に関するお問い合わせ

☎0561-74-1711 (担当/長屋、浅井)







**妙義龍関が来館しました**  
7月26日、境川部屋の妙義龍関が愛泉館を訪問。気さくで優しい人柄で、インタビューコーナーや握手会、サイン会をしてくださいました。実際にまげを結う様子を間近で見せていただくという貴重な体験も！いつもテレビで応援している有力士の訪問にみなさん大変喜ばれ、大きな体と大きな手に触れることができ、いい思い出になりました！妙義龍関ありがとうございました。

愛泉館



36年間  
無事故無違反



ドライバーの川北さん

**病院送迎バスの運行ルートを変更します**  
病院の正面玄関に発着している「無料送迎バス」が11月5日からリニューアルします。通院されるみなさんがより利用しやすいように、運行ルートや利用方法も変更になります(ご利用料金は無料)。詳細は病院受付窓口にある「バスご利用方法のご案内」をご確認いただくか、お電話にてお問い合わせください。ホームページでもご確認ください。

愛知国際病院

入場無料



【日時】2019年10月14日(祝・月)10:00~16:00(雨天決行)  
【場所】AHI(アジア保健研修所)  
※当日は愛知県総合教育センターの駐車場をご利用ください。  
※黒笹駅=イベント会場=当日駐車場の間を送迎バスが運行します。

【場所】AHI(アジア保健研修所)  
日進市米野木町南山987-30(愛知国際病院となり)

お問い合わせ(電話またはE-mail)

☎0561-73-1950  
✉info@ahi-japan.jp【担当/鳥飼】



**アジアのお祭り**  
「AHIオープンハウス2019」  
AHI(アジア保健研修所)が、毎年体育の日開催するイベントです。アジアの料理、歌や踊り、民芸品の販売、アジア6カ国からの研修生13人との交流など。ぜひご家族、お友だちとどうぞ！

AHI(アジア保健研修所)

Cover Story



愛知国際病院の目の前に広がる愛知牧場。秋になると小高い丘一面を、オレンジのコスモス畑が覆います。空高く澄み渡る、秋晴れの昼下がり。

釣りごはん



海の女王  
「鱧(キス)」の天ぷら

白く透き通る美しい魚体で「海の女王」と呼ばれる鱧(キス)。主に砂地の比較的水深の浅い領域に生息し、大きなものは25~30cmになります。産卵のため陸に近づく初夏から秋が旬で、冬になると沖の深い場所へ移動します。鱧の天ぷらはお好きな方も多いため、気温の高い季節なら鱧を釣ること自体は簡単なので、ぜひ「自分で釣って食べる」ことに挑戦してみてください。写真は知多半島で釣った鱧です。衣は薄めに、素揚げに近い方が鱧本来の味を楽しめます。



写真・文: 愛知国際病院 釣りクラブ

少量の塩を振り、  
大葉で巻くとなお絶品!



医療と介護の相談室



指定居宅介護支援事業所 愛泉館

~今回の相談者~  
患者さんのご家族

1人暮らしの母のもとを久しぶりに訪ねてみると、薬の管理がきちんとできず、飲み忘れもあるようです。薬の管理をうまく行う方法はないでしょうか。

A

高齢になるとさまざまな病気を抱え、処方される薬の種類が増える傾向にあります。それによって飲み間違いや飲み忘れなども起こりやすくなります。薬は決められた時間帯や量を守って服用しないと効果が十分に得られなかったり、飲み間違いによる副作用が生じたりする可能性もあるので注意が必要です。種類が多くて服用が大変な

場合、医師や薬剤師に相談して薬を1回分ずつ袋にまとめてもらう一包化の方法や、薬を管理する専用ケースやカレンダーを活用する方法もあります。また、認知症などによりご自身で薬を管理することが難しい場合、介護ヘルパーや訪問看護師に手伝ってもらうほか、薬剤師がご自宅に訪問できる場合もありますので、ご相談ください。

※ヘルパーや訪問看護、薬剤師の訪問などのサービスを利用する場合、介護保険の認定を受けている必要があります。

【今回の回答者】 指定居宅介護支援事業所 愛泉館

相談窓口はこちら ☎0561-74-1341 【受付時間】月~金曜/9:00~16:00 土曜/9:00~12:00

薬に関して不安やお困りごとがあれば、病院や薬局、ケアマネジャーなどにご相談ください。



心のプリズム  
~ずっと忘れたくないエピソード~



つらいときでも、楽しむことを忘れない

私が看護師になったのは生涯看護師だった祖母のおかげです。祖母が「看護師は私の天職」と誇らしげに話していたのを思い出します。看護師になり24年目。天国の祖母の目に私はどう映っているのでしょうか?

泉の話になりました。いつか行ってみようと思っていた矢先、その方はお亡くなりになりました。その年の春、私は約束通り花桃を見に行きました。空に鯉のぼりが泳ぎ、大きく枝を広げた花桃がピンク、白、赤と見事に咲き誇る風景に、心が洗われるようでした。

以前、子宮がん末期の70代の女性を担当しました。穏やかな優しい口調でユーモアたっぷりに話されるので「どうして笑顔でいられるのですか?」と聞くと、「経過が長いからね」とさりと笑って答えました。大変な道のりを経て、残された時間を知ってもなお、自然体でいられる強さを感じずにはいられませんでした。ある日、いつものように話に花が咲き、旅行の話になったとき「だめよ、仕事ばかりじゃ!家族で旅行にも行かないよ」と、花桃のきれいな月川温

花桃を見るたびに、あの患者さんを思い出します。教えていただいた「つらいときでも楽しむことを忘れず自分らしくいよう!」という教訓を大切に、生涯看護師として成長していきたいです。天職と言えるように。(一般病棟 看護師 山本 洋子)







「かぼちゃプリン」(中央)は、種をくりぬいたかぼちゃにプリンの生地を注ぎ、オープンで4〜5日じっくり焼き上げます。



ランチで人気のパンプキングラタン。



East Favorite

名古屋から東へ  
お気に入りをご紹介

かぼちゃが  
つないだ  
人との縁

愛知県日進市  
イエローパンプキン



奥さまの石川京子さん(中央)と  
スタッフの皆さん。



世界各地で集めたかぼちゃのオブジェがずらり。  
温かな色合いと形で心をなごませてくれます。

「かぼちゃプリン」の他、定番メニューのモンブランや、  
パンプキンチョコロールなども作っています。

**Yellow Pumpkin  
(イエローパンプキン)**

【住所】  
日進市三本木町大池下15  
【TEL】  
0561-73-7730  
【営業時間】年中無休  
8:00~18:00  
(喫茶 10:00~17:00)  
モーニング(8:00~11:00)  
ランチ(11:00~15:00)  
<http://www.yellowpumpkin.co.jp>

かぼちゃづくしの焼きプリン  
1980年に石川洋光さんと奥  
さまの京子さんがご夫婦でオー  
プンした「イエローパンプキン」は、か  
ぼちゃを使った多彩なメニューが  
魅力。実はロングセラーの「かぼ  
ちゃプリン」は、愛知国際病院と  
の不思議な縁から生まれました。  
当院医師の紹介で雇ったカンボジ  
アからの留学生が、母国に伝わる  
かぼちゃのお菓子を伝授。それを  
「かぼちゃプリン」として日本向け  
にアレンジしたところ、一躍有名  
に。2018年にはご当地スー  
ツグランプリで最高金賞を受賞し  
ました。  
ネットからの取り寄せも可能で、  
どこでも人気メニューが楽しめる  
のもうれしいポイント。今日も全  
国のファンの元へ、美味しいかぼ  
ちゃスイーツをお届けします。

**賛助会員募集の  
お知らせ**

アメニティーの充実(施設環境、造園、園芸)、ホスピスでの諸行事、広報啓蒙活動、家族会の開催、ボランティアの活動、教育活動のために  
是非ご協力をお願いいたします。(ご入会いただいた方には年に4回広報誌をお送りいたします)下記の口座に会費をお振り込みください。

【①郵便局窓口利用】郵便振替口座 00890-5-3757 【②ATMおよびインターネット振込利用】ゆうちょ銀行(9900) 店番089 当座0003757  
【①②口座名義】愛知国際病院ホスピス賛助会 【一口】1,000円(おいくらでも結構ですが、できましたら、5口以上をお願いいたします)

**編集後記**

ここ愛知県日進市には秋に「お月見泥棒」という風習があります。中秋の名月の風情とはかけ離れた「泥棒」の正体は…主に小学生の子供たち。近所を  
回ってお菓子をもらう日本版の「Trick or Treat」です。子どもたちの笑顔を想像しながらお菓子をたくさん準備する時間を、私たち大人も楽しんでいます。(諸石)

●これまでお寄せいただいているご意見・ご感想、大変感謝いたしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

**【医療法人財団 愛泉会】**

■愛知国際病院 ■老人保健施設 愛泉館 ■指定居宅介護支援事業所 愛泉館 ■日進市東部地域包括支援センター  
■訪問看護ステーション えまい ■住宅型有料老人ホーム カナン 【関連施設】AHI(アジア保健研修所)

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山987-31 Tel.0561-73-7721(代) Fax.0561-73-7728 <http://aisen-kai.jp/>

医療法人財団 愛泉会 広報誌「みなみやま94号」 発行日:2019年10月1日 発行人:井手宏 編集発行:法人だより委員会 編集長:近藤正嗣  
※無断で複写、複製、転載することを禁じます。



スマートフォンでも  
ご覧いただけます

お問い合わせ

医療について ☎0561-73-9179 (地域医療  
連携室)

介護について ☎0561-74-1300 (日進市東部地域  
包括支援センター)

【医療・介護についての受付時間】月~金曜 9:00~17:00 土曜 9:00~12:30